

令和2年度
会津若松市男女平等に関する作文コンクール

入選作品集



会津若松市

目次

令和二年度「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 鈴木 秀子

●小学生低学年の部

最優秀賞	男らしさと女らしさは大切	行仁小学校	三年	加藤 <small>かとう</small>	心結 <small>こころ</small>	さん…1
優秀賞	男女びょうどうについて	日新小学校	一年	岡部 <small>おかべ</small>	恵菜 <small>えま</small>	さん…3
優秀賞	ぼくのトレードマーク	行仁小学校	二年	小瀧 <small>こたき</small>	夕オ <small>たお</small>	さん…5

●小学生高学年の部

最優秀賞	役割分担	一箕小学校	五年	二瓶 <small>にへい</small>	楓太 <small>ふうた</small>	さん…7
優秀賞	男女平等を世界へ	一箕小学校	六年	五十嵐 <small>いがらし</small>	鈴夏 <small>りんか</small>	さん…9
優秀賞	歴史から見た男女の仕事	永和小学校	六年	佐久間 <small>さくま</small>	悠太 <small>ゆうた</small>	さん…11

●中学生の部

優秀賞	男女平等について	第二中学校	三年	遠藤 <small>えんどう</small>	朱里 <small>あかり</small>	さん…13
優秀賞	男女平等について	第二中学校	三年	佐々木 <small>ささき</small>	結愛 <small>ゆな</small>	さん…15
優秀賞	日本人の固定観念	第二中学校	三年	松本 <small>まつもと</small>	権寧 <small>かひね</small>	さん…17

※同賞については氏名50音順です。
※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和2年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 鈴木 秀子

会津若松市は、すべての人々が性別にかかわらず多様な生き方が尊重され、それぞれに個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな取り組みを行ってきました。男女平等に関する作文コンクールもその取組のひとつで、今年度から始まった第5次会津若松市男女共同参画推進プランのコンセプトである「次代を担う子どもたちへの期待」のもと実施されています。

今年度はコロナ禍での休校や夏休み短縮があり大変な状況でしたが、93作品の応募がありました。応募数は少なかつたものの、素晴らしい作品ばかりでした。厳正な審査の結果、最優秀賞2作品（小学生低学年1、小学生高学年1）、優秀賞7作品（小学生低学年2、小学生高学年2、中学生3）を選出いたしました。

作品の中で子どもたちは、世帯・家族、ワーク・ライフ・バランスや就業を取り巻く環境及び男女共同参画に関する意識が変化する中、身近な家族や先生の態度やメッセージ、社会の状況をしっかりと観察し、客観的・多面的に考えながら自分の意見をまとめています。小学生低学年の部では、男らしさ女らしさの大切さに気づきながらも、性別を超えて自分らしさを大切にすること、高学年の部では、男女平等を実現するために行動することの大切さ、中学生の部では、日本の社会通念や男女共同参画の現状に目を向けて考え、お互いを尊敬し尊重しあうことの大切さを綴っています。

この作文コンクールをきっかけに、多くの子どもたちが男女平等や男女共同参画について関心を持ち、性別による固定的なイメージや役割分担にとらわれず、自分らしさとは何か、男女平等とはどういうことか、男女平等のために自分ができるとは何かを考え、行動していくことでしよう。

私たち大人は、子どもたちが男女平等や男女共同参画の社会が当たり前といえる環境を整えるために、学び、前進していきたいと思っております。

優賞
最秀

男らしさと女らしさは大切

行仁小学校 三年 加藤 心結

わたしのお父さんは、お休みの日にいつもバーベキューをしたりお料理をしてくれます。平日はお母さんやおばあちゃんが家事をやっています。お母さんがつかれているときに、お父さんがお料理をしてくれてたすかると言っていました。またお母さんがお仕事の日にお父さんがわたしたち四人兄弟をつれて遊びに行ったりごはんとおふろもやってくれます。お母さんとおばあちゃんは「ふつうのお父さんは子ども一人見るのでも大へんなのに子ども四人もみながら、お家のこともやるなんてすごいよ」と言っています。それを聞いてお父さんとお母さん二人でささえながらやっています。さえないなと思いました。

そんなお父さんですが、悪い事をしたりけんかをしたりするとおにのようにおこります。この間、妹と弟がけんかをしていました。お父さんが、弟に「男

の子なんだから女の子に手をだすな」と言っていました。妹には「女の子なんだから男の子にもんくを言うな」と言っていました。お母さんのように家事や子どものめんどうを見るお父さんが、男だから、女だから、となぜ言うんだろうと思いました。

わたしのお母さんはほいくしよの先生です。ふしんしゃのひなんくんれんの日に「男の先生がいたらこわくないのになあ」と言っていました。それを聞いて、わたしは、男の人は弱い人を助けたり、強い力があるので男の先生がいたらいいと思います。また、わたしの通っていたようち園では、男の先生がいました。男の先生は、お父さんのように、とても高くだっこしてくれました。女の先生は、お母さんのように、優しい声で、歌を歌ったりねせてくれました。しかし、男の先生でも、ピアノをひいたり、女の先生でも、高い所に上って力仕事をしていました。男と女の性別にかんけいなく、とくいなことや、

すきなことをはつきしたり、仕事にしているすごいなと思いました。

男だから、女だから、ときめつけるのはきらいですが、お父さんは、男らしさや女らしさは大切だと言っているのかなと気づきました。

男の人にしかできない事、女のひとにしかできない事もあるけれど、人によってすきな事、とくいな事はちがうと思います。自分らしく、せいべつを気にしないですきな事をやったり、ちようせんする事はすてきな事だと思います。わたしも、きめつける事をしないで、色々な人の気もちが分かる人になりたいです。また、そのような事でこまっている人がいたら、おうえんしたり、助けてあげられる人になりたいです。

講評

父母が支え合っている姿から、男女の在り方や生き方をしっかりと考えています。「男らしさ、女らしさ」は強制するものではなく、性の多様性は以前より身近になってきています。「自分らしく、性別を気にしないで挑戦する」ことの大切さに気づき、後半のまとめ方も素晴らしいです。心結さんはタイトルを「男らしさと女らしさは大切？」の疑問形にしたかったのではと思いました。

優秀賞

男女びょうどうについて

日新小学校 一年 岡部 恵葉

わたしは、「男にうまれればよかったな。」と思うことがあります。それは、男しかすもうとりになることができないときいたからです。わたしは大ずもうが大すきで、そふぼのいえでいつも大きなこえでおうえんしています。わたしのようにならだが小さくても、大きい人にかつすがたがかっこよくて、わたしもしょうらいおすもうさんになりたいと思っています。でも女だからというりゆうでおすもうさんになることができないなんて、男はずるいと思いました。よくしらべてみると、土ひようはしんせいなばしよなので、女の人は、こくぎかんの土ひようにたつことができないというきまりもあることがわかり、おどろきました。

わたしは学校せいかつで、「女だから」とか「女のくせに」といわれていやな気もちになったことは

ありません。あるとすれば、おんどくのれんしゅうで、男子と女子に、わかれてよむときのじゅんばんが男子がさきのことが多いので、「はやくよみたいから、女子がさきがいいな」と思うくらいです。

でも、しごとでは、大ずもうのように女だからというりゆうでできなかつたり、はんたいに女の人のほうがあつてゐるからというりゆうで、そのしごとにつく人が多かつたりするようです。たしかに、わたしのかよつていたようちえんには、男のせんせいはいませんでした。それは女のせんせいのほうが、お母さんのようにやさしいかんじがして、わたしたちがあんしんするからだったのかなと思います。

わたしのいえでは、お父さんもお母さんもそうじやりりゆうをしているけど、そふぼのいえでは、そふはおそうじ、そぼはりりゆうとやくわりがわかれてあります。そのりゆうをきいてみると、そぼは「それぞれとくいなことをしているからだよ。たのしいよ。」といていました。お父さんは、「お父さん

もお母さんもおしごとをしてるから、どちらもなんでもやらないとまにあわないからだよ。」とはなしてくれました。びようどうということばは「さべつがないこと」と、じしよでしらべたので、わたしのうちは男女びようどうかもしれない。でもわたしは、とくいなことをしてたのしいのがいいなと思いました。

↑
講評
↓

女子がすもうとりになれないのは残念でしたね。でも、そこから男女平等について関心を持つようになり、両親や祖父母が家庭で行っているそれぞれの役割を知って、感じたことを素直に表現している作品です。

優秀賞

ぼくの特レードマーク

行仁小学校 二年 小瀧 タオ

ぼくは、かみの毛が長いです。今は、ぼくのかたにくつつくくらい長さです。いつもは、ゴムで後ろに一本にまとめています。ぼくのことを知らない人は、ぼくを女の子だと思ってしまうんです。いろいろなところで男子トイレに入ろうとすると女子トイレをゆびさして

「女の子はあっちだよ。」

と声をかけてもらったことがたくさんあります。ぼくは、今まで何回かかみの毛を短く切ろうと思った事がありました。でもやめました。かみの毛が長いとよいことがあるからです。はじめて会った人はぼくに

「どうしてかみの毛をのばしているの。」

と話しかけてくれます。そして、ぼくのことをかみの毛が長い男の子とおぼえてくれて、お友だちにな

れます。ぼくは、お友だちがたくさんできると楽しいのでうれしいです。

「かみの毛が長いのかっこいいね。ぼくもまねしてのばしているよ。」

と言ってくれた男の子のお友だちもいます。ぼくのお父さんとお母さんは、

「男の子がかみの毛を長くしても、女の子がかみの毛を短くしても、それは自分らしさだからだいじょうぶだよ。」

「かみの毛が長いのは特レードマークだね。」
と言ってくれます。

ぼくには、妹がいます。妹はおままごとやおけし
ようごっこが好きだけど、虫や魚やどうぶつも好き
です。家ぞくでいっしょに虫とりや魚つりやザリガ
ニつりができます。ぼくは、空手やスケボーが好き
だけど、おりょうりも好きです。お母さんと妹とい
っしょにクッキーをやいたり、お父さんといっしょ

にハンバーグを作ります。家ぞくみんなでいっしょにたくさんの同じことができます。

ぼくは、男の子だから、女の子だからを気にしないで、一人ひとりが好きなかみがたをして、好きなふくをきて、好きなことをするととても楽しいと思います。

講評

作者のご家族皆さんが、一般的な性役割の概念にとらわれず、「自分らしさ」を大切にしながら、家族が仲良く生活している様子が伺え、作者自身も男女が共に認め合い尊重することの大切さを理解していることが評価できる作品でした。

優賞
最秀

役割分担

一箕小学校 五年 二瓶 楓太

ぼくの家では、お父さんもお母さんも仕事をしてるので、家事を分担しています。お母さんがお父さんに

「気づいたらなるべく手伝って。」

と言っていたけど、お父さんはなかなか気がつかないので、最近、お母さんが家事の分担表を作ったかべにはりました。そうすると、お父さんは忘れずに家事をやるようになりました。分担表を見ると、食器洗いと洗たくを曜日ごとにだれがやるか書いてありました。食器洗いはお父さんの方が多くて、洗たくはお母さんの方が多くなっていました。それぞれの得意なことを多くして苦手なことを少なくしてるところが、いいなあと思いました。

分担表に書いてあること以外では、お父さんのワイシャツのボタンがとれたときは、さいほうが得意

なお母さんがボタンをつけます。家の中に虫がいたときには、虫が平気なお父さんがつかまえて外ににがします。庭の草むしりは、二人でいっしょにやっています。

「男女平等」というのは、男女関係なく何でも半分にすることではなくて、それぞれの得意なことや苦手なことを考えながら役割分担することなんだと思います。

ぼくは、さいほうも虫も苦手だからなかなか手伝えないけれど、お風呂そうじをしています。お兄ちゃんやんは、みそ汁を作るのが得意なので夕飯づくりを手伝っています。僕の家の中では、男女関係なく得意なことをがんばって苦手なことを助けてもらっているのです、男女平等だと思います。

家の中だけでなく、学校生活の中でも男女平等にしていくには、どうすればよいのか考えてみました。お母さんが家事の分担表を作ったように、男女平等にするために積極的に行動することが大事だと思います。

ます。ただ不満に思うだけでは伝わらないし、変わらないからです。ぼくが学校で「平等じゃないな」と感じるものがあつたら、まず声に出して伝えてみようと思います。そして、みんなで話し合えたらいいなと思います。

ぼくは、これから、男だからとか女だからとかを気にしないで、自分が得意なことはすすんで手伝って、苦手なことは助けてもらいます。そして、男女いっしょにできることは協力しながら、楽しく生活していきたいです。

講評

家庭での出来事から、男女平等は何でも半分にするのではなく、それぞれの得手不得手を考えて役割分担することに気づき、さらに学校生活の中でも、積極的に行動することが大事だとの考えに至ったことが素晴らしい。

賞
秀
優

男女平等を世界へ

一箕小学校 六年 五十嵐 鈴夏

私は、ふだんの生活の中でこれは差別にあたるのではないかと思うことがたくさんあります。なぜ、これは女がやってはいけないの？男も女も同じ生き物なのにどうして…と思います。

まず、学校生活で思ったことです。学校には校長先生がいます。私は、校長先生はとてすごい人だなど感心しています。学校を引っぱったり、何かがあるとすぐに指示したり何でも出来る人です。しかし、私が六年間小学校生活をしてきた中で、女の校長先生は一人でした。他の学校では、女の校長先生がいたことが無い学校があるかもしれません。私は、このことに少し悲しくなりました。女の人でもリーダーシップがある人やたくさんの人をまとめられる人はいるのにも思いました。男の人を悪く言っているわけではありませんが、これは「差別」にあたる

のではないのでしょうか。女の方は活やく出来ないみたいで気持ちがモヤモヤします。女の校長先生がもっと増えて、学校をつくり上げてほしいなと思っています。

次に、議員の男女のことです。議員は約七百人います。そのうちのほとんどの人が男性議員なのです。なぜ、女性は少ないのだろうかよく考えます。東京の都知事は女性ですが、その他の府や県はどうでしょう。住んでいる福島県の知事も会津若松市の市長も男性です。私は、議員が何かを決めるとき男性の意見だけでは正しいことまでたどりつかないと思います。なぜ、私がこのことを考えたかというクラスの話し合いでのことです。クラスで話し合いをしたとき、女子だけで決まらなかったことが、男子もまぜて話したときには決まりました。だから、女性議員を増やすべきだと思いました。

三つ目は、世界の国々のことです。日本以外の国でも男女差別はあると思います。ある国では、女は

いららない、女はみじめというような理由で差別している国もあります。このことは、昔の日本と似ています。昔の日本は、女は家の仕事や勉強をして、男は力仕事をするという差別がありました。私は、男の人も女の人も自分のやりたいことをすればいいのにと思いました。なぜなら、今は「仕事について働く権利」があるからです。女も男も同じ職場で仕事ができ、海外の人も仕事ができます。昔の差別があった時代もこの権利がつくられていたら、たくさんの人が自分の好きな仕事について働いていたのではないかなと思います。また、日本以外の国々でも、男女が好きなように生活できるようにしてほしいと思います。

私は、男女差別という言葉がこの世界から無くしたいです。男も女も仲良く生きれば、差別という言葉から平等という言葉に変わります。だから、この世界に平等が増えてほしいです。

講評

自分自身の中に男女平等の認識があることで、学校生活や政治の世界をとらえていること、歴史や世界の国々にまで目を向けていることなど、とても良く書けていると思います。男女差別という言葉をなくすことにより、男女平等が実現するのだという視点も評価したいと思います。

賞
秀
優

歴史から見た男女の仕事

永和小学校 六年 佐久間 悠太

十歳の誕生日、僕はお父さんに日本の歴史の本をプレゼントしてもらった。歴史が好きな僕は、色々な時代で活躍する人達に夢中になり、何度もその本を読み返した。何度も読んでいるうちに僕は、「歴史上、活躍した女性はどうしてこんなにも少ないのだろう。」と、ふと疑問に感じた。

太古の日本を生きていた人々は、男性が狩りに出て女性が家事や子育てを行い家庭を守っていた。なぜ女性は狩りに出なかったのだろうか。それは、男性は女性に比べて「力」が強いからだろう。生きるために必要な食料を捕獲するには命の危険があり、強い「力」が必要だった。女性はその「力」が男性に比べると弱かったために狩りに出なかった。戦国時代も同じように「力」のある男性が外で仕事をして、女性が家庭を守っていた。そのため、「力」が強い男性が権力を握り、多くの女性は権

力を得たり社会で活躍することができず、男女の差別が生まれてしまったのだろうと僕は思った。

現代を考えてみるとどうだろうか。今年、新型の感染症があつという間に広がり、世界中の人々が恐怖におそわれている。日本でも多くの感染者が出て、これまでのように友達と外で遊んだり、勉強をするといった普通の生活をするのが難しくなった。僕は、外出をしないでほとんどの時間を家で過ごし、不安を感じながら生活していた。そんな時、僕はテレビで感染症から人々を守るため病院で働く女性の番組を見た。自分の命の危険をかえりみず、ただひたすら感染してしまった人のため懸命に仕事をしていた。その女性の姿を見た僕は、不安だらけだった気持ちに希望を感じ、勇気をもたらした。そして、仕事には男性も女性も関係がないと感じた。

しかし、社会全体で見るとこのように仕事で活躍している女性はごく一部の人で、男性と比べるとその数は少ない。現代の社会では「力」を必要とする職業のほかに、「頭脳」を必要とする職業が数多くあるので、

性別に関係なく働くことができるはずだ。それなのにどうして女性が活躍することが少ないのだろうか。それは、昔からの性別に関する差別的な考え方がまだ続いているからではないだろうか。

僕は、仕事に性別は関係なく、それぞれ自分がやりたい仕事につければいいと思う。そのためには、古来の考えに惑わされず、誰もがその能力にあった仕事につくことが大切だ。男女平等に仕事で活躍することができれば、もっとすばらしい歴史が生まれるはずだ。

講評

歴史から男女の仕事の固定化や男女の差別を考え、これからは「力」ではなく「頭脳」を生かすことで、性別に関する差別をなくし、男女平等に仕事で活躍できるのではないかと前向きに考察したところがすばらしい。

優秀賞

男女平等について

第二中学校 三年 遠藤 朱里

昔、保育士が「保育さん」と言われていた頃は、女性が主流の職業でした。しかし、児童福祉法が改正され、男も女も「保育士」という国家資格が誕生してからは、男性の保育士も多く見るようになりました。私の妹が通っている幼稚園にも、男性の先生がいるそうです。

しかし、現状としては、元々男性保育士の人口が少ない事に加え、女性中心の幼稚園や保育所では、男性職員の居場所が少ないと聞きました。また、担任を持たず、クラスにおいても副担任という役割が多く、自分のやりたいう仕事が出来ずに保育士を辞めてしまう先生も多そうそうです。

私の母は、子ども園の保育部に勤務しています。この話も母から聞きました。また、男性保育士が活躍できない大きな原因としては、「着替えやトイレ」にあるそうです。これは男性保育士が担任を持たない理由の一つで

もあります。母も、最初は何ともないと思っていたようですが、やっぱり自分の子どもとなると、男性保育士さんが一緒に着替えを手伝ったり、トイレの付き添いをする事に、当たり前のことだけど、女性保育士さんと比べて安心出来ない。特に、女の子を持つ親は、そう感じている人は多いんじゃないかと言っていました。私は親ではないので、あまりピンと来ませんでした。でも、男女の中にある差は変わらず残り、在り続けていると痛感しました。

現代社会では、昔の日本に根づいていた「女は女らしく、男は男らしく」という決まり文句のような固定観念が少しずつ変化していっています。女性差別や男性差別で、強い所や弱い所、有利や不利はありますが、女だから男だから、これはやってこれはやらないという観念が変化し、今まで男性が多くやっていた仕事に女性も就くようになったり、その反対に女性中心の職場に男性も加わって、男女共に「働く」範囲が広がっていると思

ます。すると、同時に「観る目」も増えるので、新しい観点で新しい発見が出来る気がします。

男と女はそもそも違う役割があり、違いがあるから有益であり、それを一緒にしようとすることは無益です。違いを生かさずに、画一化しようとするれば、必ず「違い」が浮きぼりになります。それは、今までの歴史が証明してきた通りです。

だから大切なことは、その違いを「認める」ことなのではないでしょうか。そしてそれをみんなが尊重する事が大切だと思います。男女平等だけにこだわることは、「差」を強調しすぎる気がします。差は「生かす」事が大切だと思うのです。男女をそれぞれ生かす事は、当たり前前の概念から脱却させてくれ、環境が変われば人間も変化します。私はそれを心に留めて生きていきたいです。

講評

昔の事から今の自分を取り巻く環境をよく見ています。母の仕事から男女の対応の違いを感じ、男女平等・差別を強調することなく「お互いを認め合う」と言うことで、これからの自分の生き方をよく表現しています。

優秀賞

男女平等について

第二中学校 三年 佐々木 結愛

私の考える男女平等は、「尊重し合うこと。」昔の日本は、男性は働けることが素晴らしいと言われ、女性は男性を支える立場であり続けるべきだと言われていた。では、働けない男性や家事が苦手な女性は素晴らしくないのか。私はそうは思わない。なぜなら、働けなくても家事が得意な男性もいるし、家事が苦手でも外に出て働けば活躍できる女性もいるからだ。

更に具体的な例をあげると、私の実体験だ。生徒会に所属している私は、様々な仕事を協力してやっているが、全校生に配付される資料の文を手書きで清書するという仕事が入った。私は役員のメンバーに「字がきれいだから、この仕事やって。」とお願いされたが、自分の字に自信がなかった私は、全校生に見られるのが正直恥ずかしかった。しかし、断

らずに、緊張しながら書いていねいに書いている最中にメンバーの男子が

「やっぱり女子は字が綺麗で“ずるい”。」

と一言。「字が綺麗だから」ということよりも「女子だから」という理由で選ばれたのかと思うと、少し悲しくなった。その時、メンバーの別の男子が

「女子だから、じゃなくて努力したから上手なんじゃないの。“ずるい”というより、素直にすごいと思うよ。」

と言ってくれたのだ。この一言で、私は先ほどまでの気持ちとは一転し、とても心が高揚した。「女子」としてではなく、私個人として認められたことが純粹に嬉しかった。この一言は、私が自分の字に自信を持てるきっかけになった。

こういうことを通してみると、現代の性の壁は昔よりも低くなり、素晴らしい世界へと変わっているのを感じる。これから先、自分が持っている実力や素晴らしさに気づける人が一人でも増え、自分の良

さで他の人をカバーできるようになっていけば、より良い世界になるのではないだろうか。性別ではなく、一人の人間としてお互いを認め合えるような「尊敬の輪」がもっと広く、大きくなっていく未来を築けることを私は願っている。

講評

性別にとらわれず、お互いに認め合い努力している姿をよく見えています。男女が互いに一人の人間として尊敬し合い、働けない人にも価値観を見出し、相手を思いやる心の大切さを表現しています。「尊敬の輪」、心に響きました。

賞
秀
優

日本人の固定観念

第二中学校 三年 松本 權寧

現在、日本の内閣総理大臣は男性です。そして、今までも男性でした。これから、女性の内閣総理大臣は誕生するのでしょうか。

日本の政治家は、性差別発言を幾度となく繰り返してきました。なぜ、これほどまでにそんな発言をするのかと、僕は考えました。それは、恐らく男性から女性、女性から男性への固定観念が変わらないからだと思えます。昔から、男女平等を必死に訴える人々のおかげで、女性に選挙権が与えられたりして、日本の制度が改善されてきました。なのに、たとえ制度が改善されたとしても、日本人の古くからある男女それぞれへの固定観念が変わらないせいで、政治家の性別差別発言がなくならないのです。

昔からみれば、女性の行動範囲は広がったとしても、立場は大きく変わることなく、男性よりも弱く、どこか

義務のように家事や育児をするようになっていました。逆に、男性は女性よりも強い立場にいて、家事や育児よりも、仕事を優先するの方が多かったと思います。

しかし、これからは男女が「やるべきこと」を決め付けずに、自由に話し合って決めるべきだと思います。例えば、女性が子供を産んだ後には、仕事を休んで主婦でいなければならぬという、固定観念があったとしても、その女性が働きたかったら、無理に専業主婦をする必要はないのです。お互いに助け合いながら、既存の男女の在り方には捉われずに、自由に暮らしていくことが大切だと思います。

これらをまとめると、日本が男女平等な社会になるためには、次の二つの事が必要だと思います。一つは、今までの男性から女性への女性から男性への、固定観念を捨て去ること。もう一つは、男女それぞれに配慮された社会がつくられることだと思います。

そこで、日本が男女平等な国になるためには、日本の代表ともいえる内閣総理大臣に女性が就任し、日本人全

体の固定観念が崩れさるような政策をやっていたら、他にない、僕はそう考えます。リーダーが変われば、全体の動きも体制も変わります。今までの「当たり前」を改革し、既存の古い固定観念を覆すことこそが、男女平等への道なのではないでしょうか。

講評

作者は決定の場に女性が少ないことや、国の指導的立場の政治家の性差別発言に注目している。作品で述べられているように、男女がともに家事や育児を担い、社会貢献し、決定の場に女性が増えることが男女平等社会には必要で、女性の活躍を願っている。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000年2月27日

会津若松市

市では、令和元年から令和5年を計画期間とする
「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、
「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりが
その個性や能力を十分に発揮することができるまち」を目指して、
市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。



市ユニバーサルデザイン
キャラクター
「ゆにばくくん」

発 行 令和3年1月

会津若松市 企画政策部 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号
TEL. 0242-39-1405 FAX. 0242-39-1400

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>
この作品集は市のホームページにも掲載しています

